



委 員 会 報 告

医療事故防止委員会

○設置目的

- 1) 医療事故防止委員会の開催
- 2) 報告されたインシデントについての原因分析、対策の検討、職員への周知
- 3) 医療安全に関する職員研修・指導
- 4) その他、医療安全に関する事項の協議

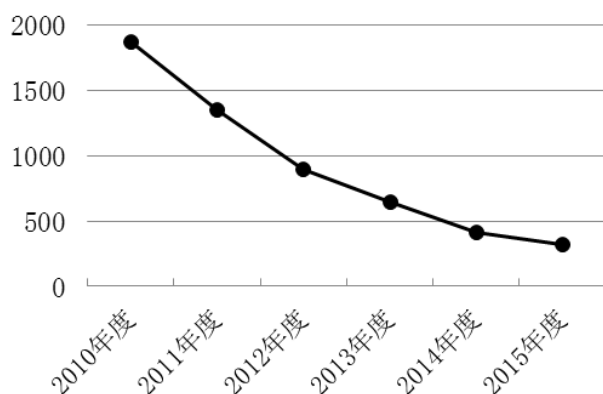
○委員構成

委員長（病院長）、副委員長 2 名、看護部長、事務長、各部署長等

○2015 年度の活動報告

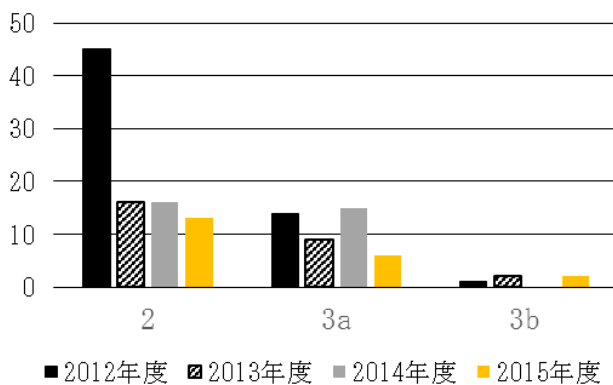
委員会では毎月、委員会の開催日前日までに報告されたインシデント事例 1 か月分の中から重要事例を採り上げ、部署内での対応・対策を確認、協議し、対策が不十分であれば、あらためてその改善を依頼し、結果を翌月の委員会にて確認した。また、複数部署にかかわる事例では、対応・対策について協議・調整した。

総報告件数の推移



2015 年度のインシデントの総報告件数は 323 件であり、前年度より 22%減少した（左図）。

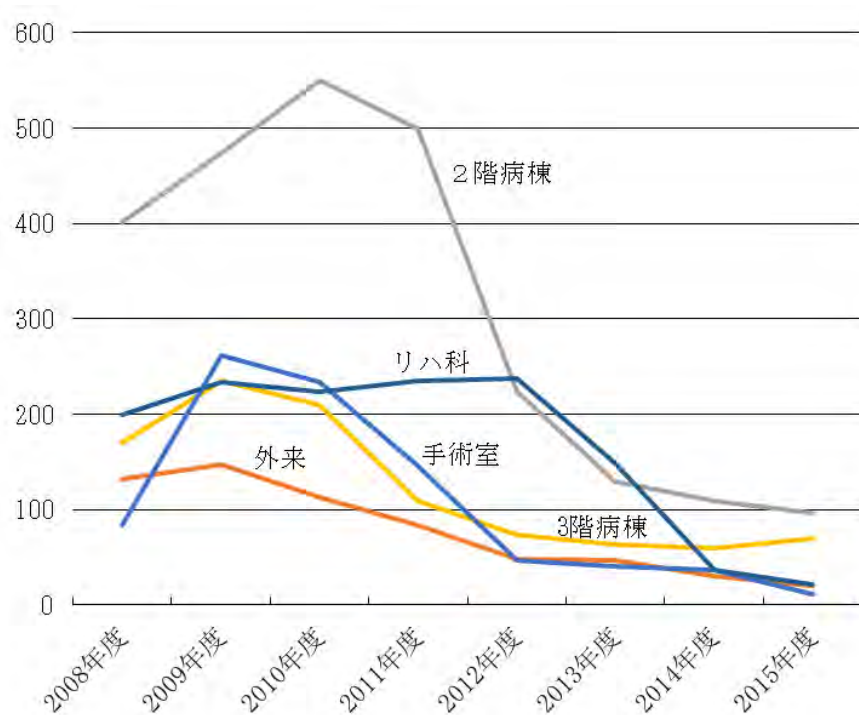
影響度レベル



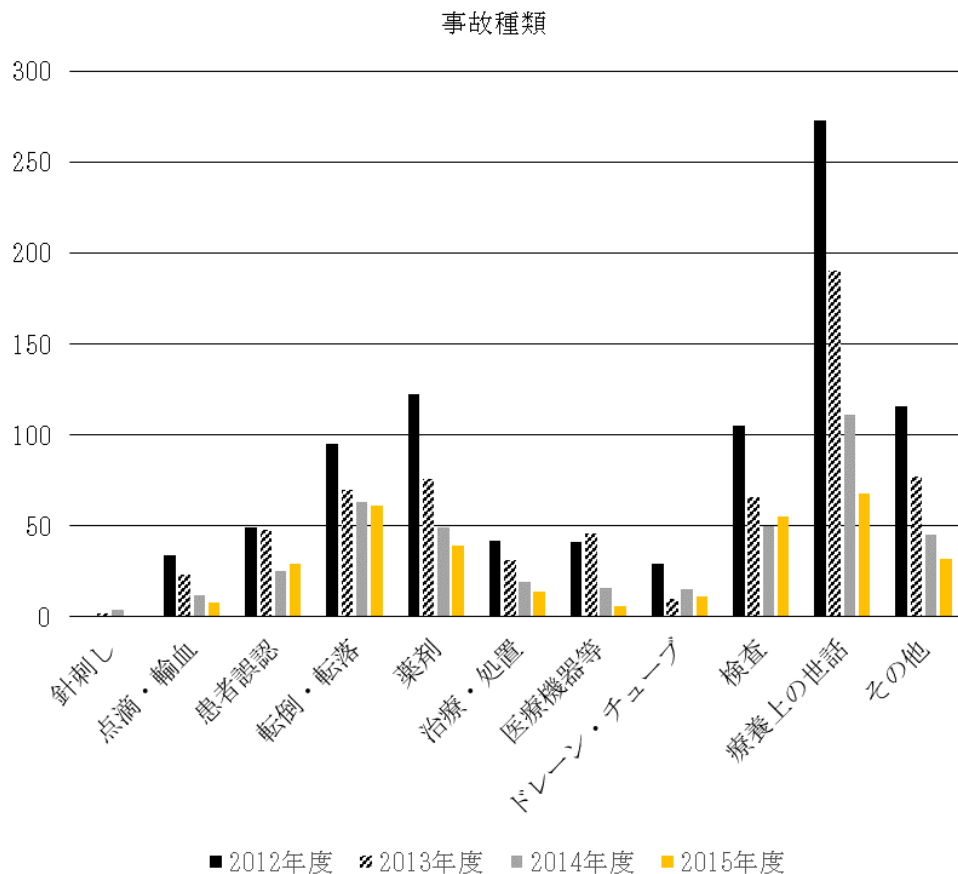
インシデントの影響度は、レベル 3b（濃厚な治療を要する（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術入院期間の延長、外来患者の入院、骨折等））が 2 件、レベル 3a（簡単な処置・治療を要する（消毒、湿布、皮膚縫合、鎮痛剤投与等））が 6 件、レベル 2（処置・治療は要しない（バイタルサインの軽度変化、観察強化、検査の必要性））が 13 件であった（左図）。

部署別報告数（発生・責任部署ではない）の推移を次表・図に示す。

	‘08 年度	‘09 年度	‘10 年度	‘11 年度	‘12 年度	‘13 年度	‘14 年度	‘15 年度
医局	64	73	41	11	8	8	1	1
外来	132	147	113	83	48	47	30	20
2 階病棟	402	474	550	500	223	129	109	96
3 階病棟	170	235	210	109	73	63	59	70
手術室	83	261	233	146	46	40	37	11
薬剤科	41	57	68	40	71	53	26	7
リハ科	199	233	224	235	238	148	37	21
放射線科	48	56	57	37	33	26	15	15
臨床検査科	91	64	65	52	39	24	29	23
栄養科	169	213	154	49	49	28	28	27
医療事務課	48	127	116	72	35	34	23	11
地域医療連携室	35	28	22	11	11	16	8	3
診療情報管理室					16	22	9	16
その他	8	11	13	4	1	4	3	1



事故種類別では、「患者誤認」、「検査」の2項目が増加した（下図）。



教育研修については、以下の通り行われた。

- 1) 医療安全研修会「ヒヤリハット報告状況、 Medikation エラー・コミュニケーションエラーとその対策」(6/26)
- 2) 医療安全研修会「医療事故とコミュニケーション」(2/19)

○2016 年度の重点目標

2015 年度の目標として「各部署の委員がインシデント報告を頻繁に閲覧し、自部署のみならず他部署の報告にも目を通す機会を増やすようにすること」を掲げた。2016 年度も同じ目標を掲げる。

○2015 年度の委員会開催日

4/17、5/8、6/19、7/17、8/14、9/18、10/16、11/13、12/18、1/15、2/19、3/18（臨時開催なし）

○まとめ

とくに「患者誤認」、「検査」、「薬剤」関連のインシデントがゼロになるよう努力する必要がある。



感染対策委員会

○設置目的

- 1) 院内感染予防委員会の開催
- 2) 院内感染状況の把握と対策の検討、職員への周知
- 3) 院内感染の研修・教育
- 4) 感染者の統計処理
- 5) 感染性医療廃棄物の処理

○委員構成

委員長、副委員長 3 名 委員 26 名

○2015 年度の活動目標

1. 早朝申し送り時、入院患者の報告を行い全職員に周知し感染に対する意識を高めた。
2. 流行期感染症把握 早朝申し送り時 感染委員長より伝達し院内感染蔓延防止に努めた
3. MARS・手指感染サーベイランス算出
 - ・手指衛生サーベイランス 目標指数を掲げ 統計結果の掲示を行った
 - ・感染統計をグラフ化しオーダーリング掲示する
4. 勉強会への参加
 - ①標準予防策 病院感染対策 5/29 講師 健栄製薬株式会社 出席 95.1% レポート提出 20 名 100%
 - ②院内感染とアウトブレイクへの対応 1/22 講師 木下院長
標準予防策 講師 病棟看護師 出席 79.8% レポート提出 23 名 82%
5. 職員教育
 - ・4 月 新人職員標準予防策・職業予防感染策・針刺し事故について
 - ・新人看護師 標準予防策・院内感染予防策・針刺し事故
 - ・看護助手 院内感染予防策（多剤耐性緑膿菌）

. グリターバグ演習 6/9～6/29 全部署
6. 職員感染予防対策
 - ・インフルエンザ予防接種 全職員対策 11/10. 11. 13 施行 接種率 99%
インフルエンザワクチン副作用調査 問診の必要性検討
 - ・B型肝炎ワクチン使用・接種状況報告
 - ・職員健康診断 5 月・11 月施行
7. 感染レポート報告（細菌感受性）検査部 1/月 感受性報告 グループウェア掲示
8. 抗菌薬使用状況報告
抗菌薬使用状況統計報告 薬剤部 1/月



9. 針刺し事故発生把握 2015 年度 0 件

10. サーベイランスへの取り組み

M A S A 感染統計参照

インフルエンザ発生状況	職員罹患率 88%
	患者 2 階 1 名 予防薬投与 3 名
	3 階 1 名 予防薬投与 1 名
ノロウイルス	患者 2 名
	職員 3 名

11. P P E 装着厳守の状況把握（採血・吸引）周知徹底

12. 院内ラウンド報告

- ・院長、薬剤部、検査部、看護師 4 名にてラウンド 院内感染発生有無・抗菌薬使用状況・他確認を行う

- ・感染委員による毎月 1 回 各部署ラウンドを行い標準予防策指導・結果フィードバックを行う

13. マニュアル変更・改訂

14. 各部署目標達成・評価

15. 地域連携感染対策合同カンファレンス参加

1 回 6/11 2 回 8/6 3 回 11/12 4 回 2/4

○2016 年度の重点目標

- 1) 標準予防策を徹底し感染を低圧する
- 2) 感染発生に適切かつ迅速に対応出来る体制を取り、院内感染の蔓延防止に努める。
- 3) 院内感染防止対策の状況の把握、指導を行う。

○2015 年度の委員会開催日

4/14 5/12 6/9 7/14 8/11 9/8 10/6 11/10 12/8 1/8 2/9 3/8

○まとめ

院内感染蔓延防止のため 標準予防策を徹底、各部署毎に、年間目標を掲げ目標達成に向け活動を行った達成率を毎月報告する事で、意識付けが行われ、標準予防策への周知徹底が図れた。インフルエンザ・ノロウイルスの院内の蔓延する事なく経過出来た。手指衛生手ピカジェル回数が平均 2.5 回と目標達成回数には行き届かなかった。今後、院内感染防止・標準予防策の徹底・感染症の早期発見を目標に頑張っていきたい。



褥瘡・栄養対策委員会

○設置目的

院内褥創対策を討議・検討し、その効率的な推進を図る

○委員構成

委員長・副委員長・委員 13 名

○2015 年度の活動目標

「褥創発生の原因分析を行ない褥創発生予防を図る」

1. 報告書の作成による情報の共有

2015 年度褥瘡推定発生率平均 0.35%

発生時の深さ・・・d1～2 発生部位・・・仙骨・尾骨・大転子部

2. 原因分析に基づく改善点の検討と、現場へのフィードバックの徹底

発生要因・・・不十分な除圧・低栄養・低体重

NST 介入

各病棟での伝達

3. 予防策の統一

新しい予防用具の購入は収納場所の確保など問題があるため、新病院へ引っ越し後に検討予定

マニュアルの見直し

4. 処置の統一

マニュアルの見直し

現場教育

○2016 年度の重点目標

「褥創発生の原因分析を行ない褥創発生予防を図る」

1. 予防策の統一

2. ケア技術の向上

3. 医療機器関連圧迫創予防策の統一

4. 原因分析に基づく改善点の検討と現場へのフィードバックの徹底

○2015 年度の委員会開催日

毎月第 2 水曜日



○まとめ

当院での推定褥瘡発生率は 0.2～0.5%で低く推移している。しかし、発生事例の原因分析では、発生要因のひとつとして『除圧が不十分だったこと』が全ての事例で考えられた。このことから、予防策の見直しとポジショニング技術の更なる向上が課題としてあげられた。今年には予防策の見直し・徹底とポジショニングをはじめとするケア技術の向上を図り、褥瘡発生0を目指したい。また、最近増えている医療機器関連圧迫創の予防にも力を入れていきたい。



業務改善委員会

○設置目的

当院における患者サービスに関する事項、サービス向上のための業務改善、効率化、環境美化及び職員の服装マナーの向上、院内・院外広報に関する事項を推進することを目的とする。

○委員構成

委員長 1 名 副委員長 1 名 委員 14 名 計 16 名

○2015 年度の活動目標

- ①環境美化活動及び患者の入院環境の安全の確保（院内ラウンド）
- ②意見箱に寄せられた意見の検討
- ③ゴミの分別方法の変更にに向けた勉強会の開催及び部署別に変更

○2016 年度の重点目標

環境美化活動及び患者の入院環境の安全の確保（院内ラウンド）
環境に優しいゴミの分別（リサイクルゴミを増やす）
患者サービス（意見箱に寄せられた意見への対応改善）

○2015 年度の委員会開催日

4/12 5/8 6/19 7/17 8/14 9/11 10/16 11/13 12/18 1/15 2/19 3/18

○まとめ

昨年度は各病棟、病室をラウンドしながらエアコンの汚れや、ベッド周辺の環境の整備等をおこなった。また、ゴミの分別の変更を検討、勉強会を持ち部署毎に変更していったが、今年度、環境に優しい分別を目標に、ゴミの分別の再検討と開始後の周知を目標とした。また、新病院への移転があるため、環境の美化及び安全の確保のためのラウンドを強化し委員会で情報共有しながら改善に向けて検討していく。



教育委員会

○設置目的

医療事故防止教育、感染対策教育、倫理教育、および職員の質向上のための教育活動を行うことを目的とする。

○委員構成

委員長 1 名 副委員長 2 名 委員 23 名

○2015 年度の活動報告

開催日	研修会テーマ	
5 月 29 日	感染対策委員会	手指衛生と環境消毒について
6 月 26 日	医療事故防止委員会 業務改善委員会	ヒューマンエラー 事業廃棄物の分別方法
7 月 24 日	医療ガス安全・救急委員会	医療ガスの取り扱いに対する講習
8 月 28 日	NST 委員会	栄養管理の重要性とそのメリット
9 月 25 日	倫理委員会	医療倫理について
10 月 23 日	個人情報保護委員会 訪問看護ステーションふくろう	USB メモリースティックの取り扱いについて 介護保険制度・訪問看護と居宅支援事業
11 月 14 日	院内研究発表会	院内研究発表
1 月 22 日	感染対策委員会	院内感染とアウトブレイクへの対応
2 月 19 日	医療事故防止委員会	医療事故とコミュニケーション

○2015 年度の委員会開催日

毎月第 1 金曜 16 時から開催

○2016 年度の目標

部署枠を越えた全職員のスキルアップ、接遇や医療倫理感の向上、職員のメンタルケアの教育や研修を立案し運営する。

○まとめ

例年 4 月から勉強会を開催出来ていたが、2015 年度は 5 月からの開催となり同月に 2 題の内容を行うなどスケジュール調整を見直す必要があった。勉強会の内容として新人職員を対象にしたものから、新規立ち上げとなった訪問看護ステーションふくろう、介護支援センターより現状の報告など多岐にわたった。各職員間の情報共有や知識向上をこの勉強会で促進していけるよう今後も活動を継続していく。



NST（栄養サポートチーム）

○設置目的

入院患者一人一人に必要な栄養の質及び量の摂取（投与）方法について提案し、健康を早く回復できるように支援するチーム医療

○委員構成

医師（西宮） 管理栄養士（中村、鞭馬） 薬剤師（尾中） 言語聴覚士（寺岡、山元）
看護師（羽田野、中山、深井、上野、平川）

○2015年度の活動報告

＊毎週水曜日 13：30～ 対象者のカンファレンス及び回診

（対象者）NST介入患者 SGA評価（B、C）患者 MNA評価（8点以下）患者
摂食嚥下障害患者 褥瘡患者 アルブミン値3.0未満の患者 前回様子見患者
食事摂取量低下の患者 大幅な体重減少の患者
（NST介入患者数） 426名 延べ患者数1452名

○2016年度重点目標

- ①対象患者の抽出をスムーズに行い、その患者の栄養状態をアップし、早期退院や社会復帰を助ける
- ②対象患者に対し、適切な栄養管理が行われているかどうかを判断し、最もふさわしい栄養管理が行えるように多職種で患者をみる
- ③NST対象患者で在宅へ戻られる患者については栄養食事指導を行う

○2015年度の委員会開催日

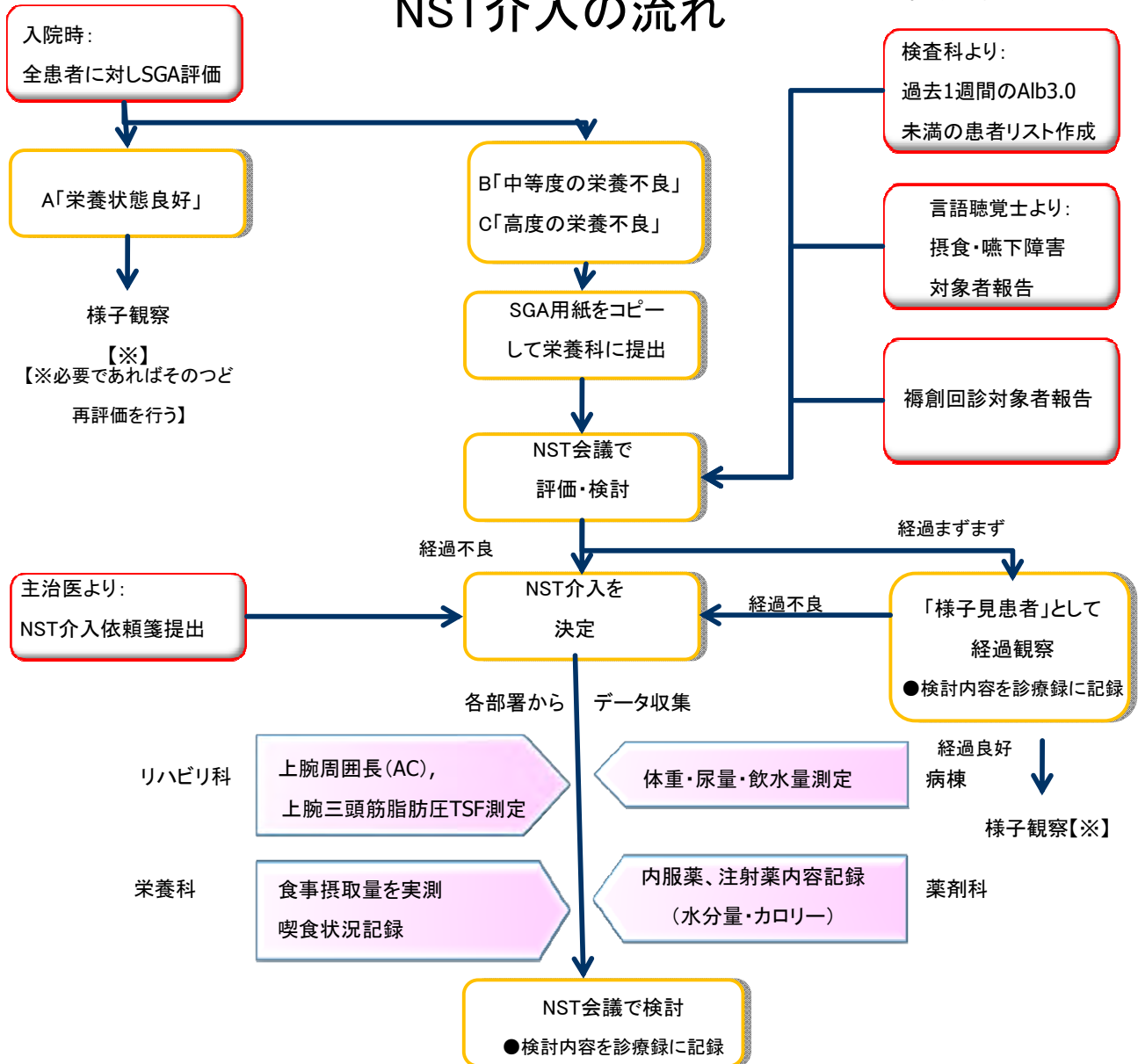
4/28 5/27 6/24 7/29 8/26 9/30 10/28 11/25 12/24 1/27 2/24 3/30

○まとめ

入院時全患者に対し早期に栄養状態の把握を行い、栄養状態不良患者に対してNSTが介入してより良い栄養状態の改善に努めたいと思います。

NST介入の流れ

明野中央病院 NST 2008



NST会議

毎週火曜日 14:00~

NSTメンバー

医師
病棟看護師
管理栄養士
言語聴覚士
薬剤師

対象

- ① NST介入患者
- ② 様子見の患者
- ③ 摂食・嚥下障害対象者
- ④ SGA評価B、Cの患者
- ⑤ 褥創回診対象者
- ⑥ 過去1週間のAlb3.0未満の患者



糖尿病相談会

○設置目的

糖尿病の治療にあたり、本疾患に対する患者自身とその家族における基本的な知識の理解・普及を高める

○委員構成

医師（木下院長） 管理栄養士（中村） 薬剤師（尾中） 看護師（羽田野、清田、牛島、平川、）
理学療法士（重村、堀） 臨床検査技師（今永）

○2015年度の活動目標

①第38回糖尿病相談会 テーマ 「上手な食事療法について」

開催日：2015年6月20日（土） 場所 管理棟会議室 参加人数：10名

開催目的：ふだん敬遠されている丼物の糖尿食の実試食会を開催し、工夫することで低カロリーでも美味しく、かつボリューム感のある食事にすることが出来ることを体験してもらうと同時に、食事療法への理解を高める。

②第39回糖尿病相談会 テーマ 「運動療法について」

開催日：2015年10月31日（土） 場所 3病棟 リハビリ室 参加人数：4名

開催目的：家庭で簡単にできる運動を紹介し、それを体で覚え、継続的に実行してもらう事により運動療法への理解を深める。

③クリニカルパスの実施 0名

○2016年度の重点目標

①糖尿病に対する基礎知識の理解及び普及

②糖尿病相談会の年3回以上の開催

○2015年度の委員会開催日

4/6 5/11 6/15 7/6 8/3 9/7 10/5 10/26 11/9 12/7 1/4 2/1 3/7

○まとめ

2015年度は新病院建設工事のため糖尿病相談会が2回のみの開催となりましたが2016年度は年3回の開催を目標にし、地域の糖尿病患者さんの治療に少しでも支援ができればと思います



静脈血栓塞栓症対策チーム

○概要

2012 年 10 月、医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、臨床検査技師からなる「静脈血栓塞栓症対策チーム」を組織し、以来、ハイリスクの入院患者を対象に毎週、回診を行いながら静脈血栓塞栓症対策に取り組んでいる。

○スタッフ

医師 1 名、看護部長、各病棟看護師・リハビリテーションスタッフ（数名ずつ）、臨床検査技師 1 名

○2015 年度の取り組みとその成果

ハイリスク手術の術後 D-ダイマー値の閾値を変更し（4 月）、間欠的空気圧迫法の試験的中止前と術後 5 日目における下肢静脈超音波検査をルーチン化した（それぞれ 6 月と 9 月）。

回診患者数は 608 名（整形外科 524 名、内科 84 名）、静脈超音波検査施行患者数 504 名、同検査施行数 1003 件、深部静脈血栓新規検出患者数 76 名であった。症候性静脈血栓塞栓症の発症はなく、下大静脈フィルタ挿入の適応症例もなかった。

○2016 年度の重点目標

- 1) 入院時のリスク評価を正確に行う
- 2) 有効かつ無駄のない予防策を確立する
- 3) 予防策の変更・中止の判断を遅滞なく行う

○まとめ

発足からの 4 年を総括しながら、より効率的な静脈血栓塞栓症対策を確立していく必要がある。

禁煙サポートチーム

○設置目的

禁煙を希望する入院患者へ、禁煙教育、指導、退院後のサポートを行うことを目的とする。

○委員構成

看護師 6 名、管理栄養士 1 名、薬剤師 1 名、作業療法士 1 名、SW1 名

○2015 年度の活動報告

2013 年 7 月よりスタートした禁煙サポートチームであるが、今年度までに合計 76 名の患者をサポートしてきた。2015 年度の喫煙者数は 56 名であり、そのうちサポート介入は 24 名（介入率 47.8%）であった。年々喫煙者の数、介入者の数は少なくなっているが、成功率は 1 ヶ月 55%、2 ヶ月 49%、3 ヶ月 44%と、昨年より若干の向上がみられた。

	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
総介入数	76	—	—
経過確認済	76	74	72
成功	42	36	32
失敗	24	28	29
不明	10	10	11
成功率	55%	49%	44%



	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入院総数	1 4 3	1 2 5	1 2 9	1 5 2	1 1 6	1 2 1	1 4 3	1 4 5	1 4 1	1 1 9	1 5 0	1 5 0
喫煙者数	2	4	4	8	6	3	5	8	4	6	2	2
介入数	2	2	4	3	2	1	1	3	1	4	1	0
喫煙率	1.4%	3.2%	3.1%	5.3%	5.2%	2.5%	3.5%	5.5%	2.8%	5.0%	1.3%	1.3%
介入率	100%	50%	100%	37.5%	33.3%	33.3%	20.0%	37.5%	25.0%	66.7%	50.0%	0.0%

○まとめ

本年度より、禁煙希望者のモチベーションアップのため、退院時にフクロウの貯金箱を差し上げる取り組みを開始。たばこ代を節約し、何か別の楽しみに使って頂くことを期待したものであるが、このような活動を通して、少しでも成功率を向上させ、患者の健康増進に寄与していきたい。

親和会（厚生会）

○設置目的

親和会は会員同士の親睦の向上と福祉の充実を図るとともに、明野中央病院の発展に寄与することを目的とする。

○親和会スタッフ構成

・会長 1 名 ・副会長 2 名 ・会計 1 名 ・会計監査 1 名 ・役員 11 名

○総会

- ・総会は通常総会と臨時総会の 2 種類とする。
- ・通常総会は、毎年 3 月末に病院総会に合わせて行われる。
- ・臨時総会は、会長が必要を認めた時、又は会員 3 分の 1 以上の要求があった時、随時開催する。
- ・議長は会長が行う。
- ・総会は会員の過半数をもって成立する。ただし、委任状出席を認めるとする。

○会計

- ・収入 ①会費 ②寄付金 ③その他（必要に応じて臨時総会費を徴収することもある。）
- ・支出 ①職員旅行 ②レクリエーション活動 ③忘年会 ④慶弔見舞金 ⑤その他
- ・会計年度は毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。
- ・会計報告は毎年 3 月の通常総会で行う。

○2015 年度 活動報告

4 月 3 日 親睦会

場所：海老酔

6 月 12 日 ボーリング大会

場所：OBS ボール





11 月 20 日 第 2 回ミニバレーボール大会

場所：新日鐵体育館



12 月 4 日 忘年会

場所：オアシスタワー



2015 年度は計 4 回親和会の活動を実施した。

○2016 年度の重点目標

病院引っ越しがあるので、会員の負担にならない且つ、ストレスが発散できるような企画を提案する。

○まとめ

活動は親和会が一丸となって取り組んだ。親睦を深めることのできる企画が提案できたと感じている。

新聞報道

看護の日

▽明野中央病院 9日、大分市明野東の同病院で明野中学校3年生14人が一日看護師体験をした。

(写真) 木下昭生院長が「さまざまな体験を通して、いろんなことを吸収して」と激励し、白衣姿の生徒一人一人に委嘱状とたすきを手渡した。生徒はけがの消毒や包帯の巻き方、足を冷やしたり血流を良くする医療機器などを実際に体験。手術後の患者の手当てやケアの仕方、心臓マッサージ、AED(自動体外式除細動器)による救急処置法などを学んだ。普段は入ることのできない手術室も見学。関節鏡の操作にも挑戦した。

岩本真穂さん(14)は「患者さんの世話とか仕事は大変だなと思うけど、やりがいを感じた。将来は看護師になりたい」と話していた。



大分合同新聞

明野中学校3年生 明野中央病院で二日看護師体験学習

明野中学校3年生14名が5月9日明野中央病院で二日看護師体験学習を行った。

木下昭生院長から「看護師さんは病院ではなくてはならない重要なお仕事です。今日は看護師体験学習で看護師の体験をしながら、頑張ってください」と話し、一人一人に委嘱状を送った。

看護師体験学習では、血圧測定や手術後の消毒や包帯の仕方、AEDと心臓マッサージの仕方、また患者さんの気持ちになつて車椅子、松葉杖の体験等をしながら、看護師さん達が一日中忙しく働いている事に生徒たちは驚いていた。生徒の中には「今日一日大変良い看護師体験ができました。3年生なので、来年の高校受験は看護師になるための高校を受験したいです」と話す生徒もいた。

また、5月15日には大分雄城台高校と大分舞鶴高校の生徒7名がふれあい看護師体験学習を行った。



血圧測定をしています

明野タイムズ

明野中央病院 一日看護体験



五月九日、明野中央病院（木下昭生院長）にて、一日看護体験が行われた。五月十二日の「看護の日」にちなみ、明野中学校の生徒十四名が血圧・体温測定や車椅子の体験、心臓マッサージやAEDの使い方を学んだ。初めて学ぶ心臓マッサージでは人形を使っている練習が行われ、参加した生徒は「思ったより力が必要だったので驚いた。いざという時に出来るようにしたい」と感想を口にした。

大分団地新聞

健康公開講演会を開催



木下 昭生
院長



訪問看護師
工藤 武子所長



中村 英治朗
副院長

7月31日（金）、あけのアクロスタウンにて明野校区公民館主催による「健康公開講演会」が開催された。

講師に明野中央病院の木下昭生院長、中村英次郎副院長、訪問看護師藤武子所長（訪問看護師の3名を迎え、明野校区高齢者大衆、女性講座受講生など約180名が参加した。これからの医療と介護をテーマに、木下院長より2025年問題を中心とした医療、介護制度改革について説明があった。その後、中村副院長、工藤所長が、明野地区の在宅医療、訪問看護の現状について、事例を交えて紹介した。工藤所長は、「病院での治療と自宅での療養の



講演会会場

あり方を見直し、病気になってもできる限り住み慣れた自宅で自分らしい生活を続けてほしい。そのために訪問看護、訪問リハビリなどを是非活用してほしい」と強調した。

記事提供 明野中央病院

明野タイムズ



笑いに包まれた新春寄席

寄席で患者ら笑顔に

大分市明野東2の明野中央病院（木下昭生院長）で9日、毎年恒例の新春寄席があった。

入院患者や近隣の住民らに笑って元気になってもらおうと開催しており、今年で8回目。集まった約90人を前に、アマチュアの愛好家でつくる県南落語組

大分・明野中央病院

合大分支部（中山和充支部長）のメンバー3人が「つる」「長短」などの演目を披露した。軽妙な語り口に、会場は笑いに包まれていた。

入院患者の男性（74）は「笑うと回復も早くなる。楽しめました」と喜んでた。中山支部長は「明るく笑っていただき、今年も頑張ろうという元気をもらいました」と話していた。

読売新聞

明野中央病院新春寄席 正月は初笑い県南落語組合演出



明野中央病院（木下昭生院長）は県南落語組合のご協力で1月9日新春寄席を行った。

木下昭生院長は、「笑う事は健康に一番良い事です。今日は思いきり笑って下さい」と挨拶し、新春寄席が行われた。

落語の演目は『つる』

『祝い瓶』『長短』の三演目で、笑いが絶えない寄席となった。

会場は明野中央病院の入院患者さんや地域の方々と満席になり、最後まで笑い声が絶えず、落語寄席を楽しんでいた。

寄席を見た入院患者さんは、「落語は年末年始のテレビ放送などでは時々見ますが、生で聞くのは初めてでしたので感動しました」と話していた。参加者の方は、「毎年寄席に来ていますが、今年も落語を聞きながら大いに笑い、楽しい一時が過ごせました」と大変喜んでた。

明野タイムズ



新入職員 1 年間を振り返って

○リハビリテーション科 大津佑那

去年の 4 月に明野中央病院のリハビリテーション科の一員として働き始めて、あっという間に 1 年が過ぎました。働き始めたころは初めての社会生活に大きく戸惑い、先輩方や先生方、他の職種の方々に迷惑をかけてしまうことが多々ありました。しかしながらその度に指導をしていただくことによって、少しずつではありますが成長することができている、と実感しています。また同時に患者様からも様々なことを教えていただいた、貴重な 1 年であると感じています。患者様にリハビリを提供させて頂く中で、実際の社会に出て分かること、そしてこれからの社会人としての在り方などを経験とともに教えていただきました。多くの方々から学んだこと、教えていただいたことを今後に活かしていけるように頑張っていきたいと思います。まだまだ社会人としても理学療法士としても未熟ではありますが、これからも多くの知識・技術を吸収して日々精進していきたいです。

○リハビリテーション科 近澤侑香

入職して一年を振り返ると、理学療法士としても、社会人としてもたくさんの事を学ぶことができたと感じています。理学療法士としてはじめて患者さんに接したとき、知識も技術も未熟であったため、戸惑う事も多くありました。しかし、先輩方や先生方、他職種の方の丁寧なご指導のおかげで日々学んでいく事が出来ました。特に技術面では学校では習わないことが多く、その患者さんにあった方法を評価し選択していく必要があり、まだまだ勉強していくことがたくさんあると感じました。また、患者さんからも学ぶことが多く、会話や治療をしていく中で一人一人と向き合う事の大切さを感じました。そして、感謝の言葉を頂いたり、笑顔になってくれたりすると、自分の励みにもなり、とてもやりがいのある仕事だと感じるようになりました。これからも、たくさんのことを学び、患者さんが安心してその人らしい生活を送れるよう、リハビリテーションを提供していきたいと思います。

○リハビリテーション科 釘宮菜緒

この 1 年間で感じたことは、毎日が新鮮で時間が経つのが早かったということです。つい最近入職したような気がしていましたが、いつの間にか 2 年目の春になっていました。臨床の場では、学校で学んだこと以外に多くの知識や技術が必要であり、実際に理学療法士として働くことの大変さを痛感しました。そして理学療法士である前に、社会人 1 年目として礼儀や責任などについて学ぶことも多くあり、1 日 1 日がとても勉強になりました。つらいこともありましたが、患者さんや先輩方に支えられて今の自分があるのだと思います。患者さんを治療しているようで、実はこちらが元気をもらっているのだと考えさせられる日々です。これからも色々なことがあると思いますが、少しでも患者さんの力になれるよう、努力していきたいです。



○看護部 2階病棟 池邊智咲季

明野中央病院に就職して1年が経ちました。幼い頃からの夢を叶えることができ嬉しい反面、人の命を預かる責任の重さと自分の未熟さを感じています。しかし学生の時には経験することのできなかった多くの処置や手術前後の看護を行うことができ充実した一年だったと思います。目の前の業務しか見えず、思うように仕事が進まないこともあり、患者さんに迷惑をかけたこともあります。先輩方の指導と温かい言葉掛けに支えられて頑張っています。現在は朝、1日のスケジュールをたてることで計画性をもって物事を進められるようになってきました。また、日々患者さんと関わるなかで「ありがとう」「あなたはよくしてくれた」と言ってくれたことがとても嬉しくて「あなたでよかった」と言われる看護師になろうと改めて感じました。必要とされる看護師を目指し、知識と技術を身に付けていきたいです。

入職5年を振り返って

○診療情報管理室 安部智美

5年前私は専門学校を卒業するという事で就職活動を行っていましたがなかなか決まらず悩んでおり、そんな時に入学当初から第一希望であった明野中央病院の求人を見た時はまだ受かってもらえないのにとっても喜び、面接当日は受かりたい一心でとても緊張していました。卒業しても就職活動…と思っていたのに第一希望の病院に受かって喜びは倍増でした。今でも面接の場面や明野中央病院の職員になれると聞いた時の事を昨日の事の様に思い出せます。入職以来、優しい先生や課長、先輩や他部署の皆さんにとってもお世話になりご迷惑をおかけしたり、全く知識のない私に丁寧にいろいろな事をお教え頂き本当にお陰様でこんな私ですが今日までやって来る事が出来ました。5年経ち入職当初より気持ち的にも余裕が出来てこの先も更なる知識向上・クランク業務能力の向上を目指し自分らしく一生懸命にやっていきたいと思いますので宜しくお願いします。またお世話になった方々に少しでも恩返し出来るよう日々業務に邁進したいと思います。

○診療情報管理室 日高菜津美

明野中央病院に入職して5年経ちましたが、この5年間は本当にあっという間に過ぎていきました。入職当初は医療知識も全くなく、緊張と不安を抱えながら外来診察室に立っていた事を今でも覚えています。そんな何も出来ない私でしたが、先生はとても優しく、「日高さんの最初の仕事は、処方オーダーの患者氏名が間違っていないか確認する事ね!」と笑顔で声を掛けて下さり、緊張が解れた事を昨日の事のように思い出します。また、患者さんとのコミュニケーションの取り方や他部署間との連携等の医療知識以外に必要な事も、看護師さんをはじめ沢山の方にひとつひとつ丁寧に指導をしていただきました。職場環境に恵まれ、皆さんのお陰で本当に大きく成長する事が出来たと思います。今後は初心を忘れず、また、役職としての自覚と責任を持ち後輩の指導やリーダーシップを発揮できる人間を目指し患者さんに寄り添った医療が提供出来るよう努めていきたいです。



○診療情報管理室 中村美由紀

私が入職したのは、2009年こつ・かんせつ・リウマチセンター開設の時でした。医療クラークとは、どんな仕事をするのか分からないままの入職でした。初めは、医療用語に戸惑いましたが上司や同僚・他部署のスタッフの丁寧な指導を受け、外来診察介助や診断書作成・DPC入力など新しい知識や技術を得ることが出来ました。プライベートでは、長期入院や妊娠・出産と環境の変化もあり、産休・育児休暇を頂き育児短縮で職場復帰をさせて頂きました。そんな私を、周りの方々が温かくサポートして頂いている事到大変感謝しております。2016年度は、新しい病院の新設や電子カルテの導入など大きな変化がありますが、今まで学んできた知識を活かし日々精進していきたいと思っています。

○リハビリテーション科 柳井弘貴

前回、1年目を振り返った際は、新卒であったことから仕事を覚えることが多くミスもたくさんあったが、先輩方のアドバイスにより成長することができたと感想を書きました。現在は入職し6年が経過しました。あの頃と比べると先輩よりも後輩が多い状態になり任される仕事も変わりました。また以前は指導される立場でしたが、現在は指導しなければいけない立場に変わり、先輩たちの凄さを実感するとともに自分の力不足を痛感しています。しかし、この6年間は様々なことを経験する機会を頂きました。各専門領域の学会参加や、VTEチームの一員としての全国学会での発表、理学療法学会での発表を行わせて頂いたことは、様々な刺激を受け、また新たな考え方等を学べました。このような経験は自分自身の成長につなげる事が出来たと思います。まだまだ未熟な部分も多いですが、より一層患者さんのために理学療法士として成長できる様、研鑽していきたいと思っています。

○リハビリテーション科 安部和弥

私は2010年当院のリハビリテーション科に理学療法士1年目として入職しました。配属は回復期病棟で一人一人の患者さんに寄り添ったリハビリが提供できるよう日々努めていた思い出があります。その中でも心に残っているのは事故で脊髄損傷となった患者さんです。患者さんはとにかく「ケガをする前のように歩いて家に帰りたい」という希望が強かったのですが、歩行練習は両足にたくさん装具をつけ3人介助で汗だくになりながら練習を行っても回復は思うようにいきませんでした。そのような状況で本人の希望を叶えることや家族の介護力を考えるとどうしても自宅に帰れるというイメージがわきませんでした。しかし、患者さん自身の熱意や病棟スタッフ・在宅サービスそして中村副院長先生の激励もあり当院入院から他院への転院もありましたが延べ8ヶ月の入生活を経て自宅退院を果たすことができました。その患者さんは自宅で自分らしく楽しく生活をされており、現在では歩行器を使用し歩けるまでになっています。そのような患者さんのリハビリ担当をさせていただいた中で感じることで、自分達セラピストは患者さんの想いに寄り添い、励まし、支援することでたとえ思い通りでなくても患者さんの満足のいく結果が得られるのだと感じました。今後も家庭的な優しい医療（当院の基本方針）が提供できるよう日々努力し研鑽を積んでいきたいと思っています。また後輩スタッフには自分の経験を活かし、患者さんにとって大切なこととは何かを見つけられる手助けができるよう取り組んでいきたいと考えています。



○リハビリテーション科 山崎翔太

入職して早くも5年が経ちました。今回、改めて自身の5年間を振り返ると成長した所、まだ努力しなければならない所がたくさんあると感じています。1年目の時は何をして良いのかわからず、上司によく「作業療法って何ですか？」と質問ばかりしていました。そのような時でも上司は優しく教えてくれ、そのおかげで患者さんにアプローチを提供することに自信を持ち始めることができました。また、医師や看護師の方やSWなどと、周りの方からも指導やアドバイスを教えて頂くことで更に自信を持って作業療法を提供できたのではないかと思います。5年経過し、現在の課題として専門的な治療アプローチが提供できること、また、作業という特性を活かし、患者さんの潜在能力を最大限に引き出すことが出来ることだと感じています。その為には研修会の参加や知識の向上を図る努力をより一層しなければならないと感じています。「心が動けば体が動く、体が動けば心も動く」をモットーに精進します。

○放射線科 西田光希

5年前の4月に新社会人としてこの明野中央病院に入職したのですが、その時の情景がまるで昨日の事のように思えるくらい、あっという間の5年間でした。当院の放射線業務はとても内容が濃く、年を重ねるごとに更なる高いレベルを要求されるような厳しい環境で、その中を毎日必死に喰らいついていかなければなりません。自分はこの5年で、まだまだな点も沢山ありましたが成長出来た事も少なからずあって、それは今の自分にとって大きな財産になっています。入職当初は、自分が仮に間違いを犯したとして、上司や先輩が守ってくれた面がありました、しかし今ではより一層自分の仕事に対しての責任感を強く持つようになっています。それは、病院内において放射線部門がとても大きな重責を担っているとういこと、生半可な気持ちでは務まらないということが仕事を通じて肌で感じられたからです。まだまだではありますが、今後少しずつ成長しながら患者さんの治療過程の一端を責任持って担えるよう、一生懸命に業務にあたっていきたいと思っています。

○臨床検査科 今永美保

明野中央病院に勤務してから、あっという間に5年が経過していたことについて先日まで気づきませんでした。この5年間は非常に目まぐるしい環境の変化で、いつの間にか検査科科长という役職についており、以前では考えられないほどの責任を負う立場となりました。入職時は上司に任せきりだった職務も、今では自分が動かなければならないこと、自分の行動や提案で色々な事が決定することに緊張感を持ち日々の業務に取り組んでいます。今まではただ与えられた検査をするだけでしたが、他部署との情報を共有したり、様々な会議に出席することでたくさんの知識が身についてきたように思います。今後も緊張感を忘れず、よりよい検査を行えるよう頑張っていきたいと思っています。



○看護部 外来 看護師 金高仁美

私が 5 年前に明野中央病院に就職したのは、学生時代の同期生からの紹介でした。すごく働きやすい職場という話を聞き、以前の職場から転職するきっかけとなりましたが、小さな子供がいての転職は不安もあり、慣れるまで大変でした。しかし勤務形態の融通もきき、周りの方の理解や協力もあって、育児と仕事の両立を行えており、今では明野中央病院に転職して働いている事に日々感謝しています。また初めての整形外科病棟での仕事は、はじめわからない事も多くありましたが、様々な整形外科手術の患者さんを観る事や周囲の方のご指導のおかげで、知識や技術の向上や自分自身の成長にもつながっていると思います。現在は外来看護師として、日々勉強の毎日でもあります。多くの患者さんと触れ合う事で、一人の看護師としても成長をし続けられるよう、日々精神していきたいと思っています。

○看護部 2 階病棟 看護師 西田歩未

明野中央病院に入職し 5 年の月日が経ちました。新卒で入職したこともあり、社会に出て初めての経験から分からない事や戸惑う事が多々あり、周囲に迷惑をかける事が多い毎日でした。先生をはじめ上司や先輩方、他部署のスタッフに恵まれ、温かく、時には厳しく接していただいたことで今の私があると思っています。いろいろな経験をさせていただき、1 年毎に出来る事が増え、しだいに自分の意見も言えるようになりました。3 年目では初めて指導ナースとなり、今まで教えていただく立場から、教える・指導する立場と変わり、人に教える、指導する事の難しさを実感し、何度上司・先輩ナースに相談し助けられたことか分かりません。指導したナースが一人前になる姿を見る事でやりがいを感じるとともに役割の重要性を知ることができました。これからも一つ一つの仕事に責任を持ち、後輩から聞かれた事に答えられるよう日々勉強を行い、患者さんには温かく接して行けるように頑張っていきたいと思っています。

○看護部 2 階病棟 看護助手 工藤律子

医療関係の仕事に初めて就いた 5 年前。右も左もわからない私に優しく指導して下さった、看護部長をはじめ、看護師さん、先輩の助手さんには本当に感謝しています。明野中央病院に入職して、人の命の大切さ尊さを改めて知る事ができました。そして何より、病院の仕事の大切さ大変さを学ぶ事ができました。私はまだまだ自分自身に甘いところがあり、病院でして下さる勉強会以外の勉強をせず、看護助手としての質の向上に努める事ができませんでした。5 年を迎えた今年こそは、自分なりに勉強しヘルパーなどの資格をとりたいと思います。そしてその勉強を活かし、患者さんに寄り添ったお世話ができればと思います。本当にあっという間の 5 年間でした。小学 1 年だった娘も、中学生になりました。ここまで頑張ってこられたのも、皆さんに助けて頂いたからだと心より感謝しています。ありがとうございます。これからもよりいっそう、頑張っていきたいと思っています。



○看護部 3階病棟 看護師 甲斐恵美

明野中央病院へ入職し、早くも5年が経ちました。准看護師免許を取得し、看護師の学校へ通いながら学生として過ごしました。看護師になり、初めての勤務は毎日が緊張の連続でした。辛いこともありましたが、先輩方々より丁寧な指導を受け少しずつ出来ることが増えていきました。看護部をはじめ、他職種の皆さん、そして患者さんなど様々な方から支えられながらの5年間だったように思えます。急性期で4年間、そして現在は回復期リハビリ病棟で患者さんの在宅復帰に向け援助を行なっています。患者さんの思いをくみ取り、不安のない在宅復帰が実現できるような看護師に近づけるよう日々頑張っていきたいと思っています。

入職 15 年を振り返って

○診療情報管理室 佐藤伸一

現在、病院の増改築工事が大詰めを迎えている状況です。自分の病気をきっかけに看護師になりたいと、准看護学生として明野中央病院に入職しました。その当時は今の外来や手術室のある棟を増築している状況でした。その数年後に今で言う新館を増築し、そして現在の増改築工事と3回の大規模な工事を行っており、明野中央病院の変化、いや進化の過程を身をもって体験していると感じております。私自身も当初の看護業務から離れ、診療情報管理室の立ち上げや病院情報システムの担当などを経て少しは変化を遂げているのかなと思っています。中でも2015年3月に悲願の看護師国家試験に合格し、入職当初の目的を達成出来たことは私の中でとても大きい出来事だと考えております。このチャレンジに躊躇していた時に背中を押していただいた院長、副院長、事務長に深く感謝致します。そして講義や実習などで不在となった時に部署内外を問わずサポートしてくれた皆様にも併せて御礼申し上げます。今後、電子カルテ導入という大きなプロジェクトを迎えております。これまでの紙カルテから運用方法など大きく変わっていきます。これまでの経験を生かし円滑な導入のサポートと、システムの安定稼働を目指し業務に取り組みたいと思います。

○放射線科 池田義弘

前回10年を振り返ってということで執筆してから5年の歳月が流れていました。その際の手稿を読み返してみると、『今後は聞く立場から聞かれる立場になる。』と当時の自分は意気込みを書いていました。自身を顧みてどうかと自問してみると、まだまだ至らないところが多いと反省しています。学会で研究発表を行ったり、撮影方法の紹介、自身の研究発表の取り組みなどを院外で発表したりして経験を積んできましたが、不思議なことに自分の至らぬところが見えてきます。生涯学習とはこのことかと実感できたことが、この5年間の収穫と言えるかもしれません。年齢も孔子の論語では「不惑」と呼ばれる年齢に近づいてきました。その時の自身がそうある様に日々努力していきたいと思っています。



入職 25 年を振り返って

○看護部 2 階病棟 看護師 長島みゆき

明野中央病院に入職し気づくと 25 年が経っていて、時の流れの早さに驚いています。何もできずに戸惑い、先輩に指導を受けていた新人の頃を懐かしく思います。25 年の間、病院は大きく変わりました。25 年前は寝たきりの患者さんが多く長期入院の患者ばかりでした。今では専門的な治療が画期的に行われ、近隣の患者だけでなく遠方からも明野中央病院を選んで来てくれています。とても喜ばしいことだと思います。そしてこの病院で今日まで続けてこられたことに感謝しています。院長・副院長はじめ周囲の皆様が支えてくれたおかげです。私自身の役割を果たし病院に貢献すべき、今年度、管理者研修に挑戦します。看護部の質向上のために役立つよう日々精進していきたいと思っています。

○看護部 手術室 看護師 工藤玲子

私が、明野中央病院に入職したのは准看学生の時を入れると 27 年になります。まだ、高校を卒業したばかりで何もわからず就職と准看学校と寮生活になかなかじめず看護師は向いていないような気がして一般的に言う 5 月病になったような記憶があります。入職したころは、入院患者さんも整形の患者さんはほとんどいなく今とは違った感じの病院でした。手術もアキレス腱断裂の腱縫合が、時々他院から先生が来て行うくらいで、腰や人工物の手術を行うようになるとは思ってもいませんでした。平成 11 年に今の手術室ができると言うことで中村病院の手術室に 1 か月研修に行かせていただき整形だけでなく脳外の手術等も見学してもらい大変でしたがとても勉強になりました。その後は、病棟と手術室で働き前看護部長の勧めもあり正看護師の免許を取得するために看護学校に通うことにしました。学校は想像していた以上に大変でした。また実習などで長期休暇をとりスタッフに迷惑をかけながら卒業、国家試験に合格することができました。今後も周囲のスタッフに感謝しながら手術室看護師としての知識の習得や技術の向上を目指していきたいと思っています。



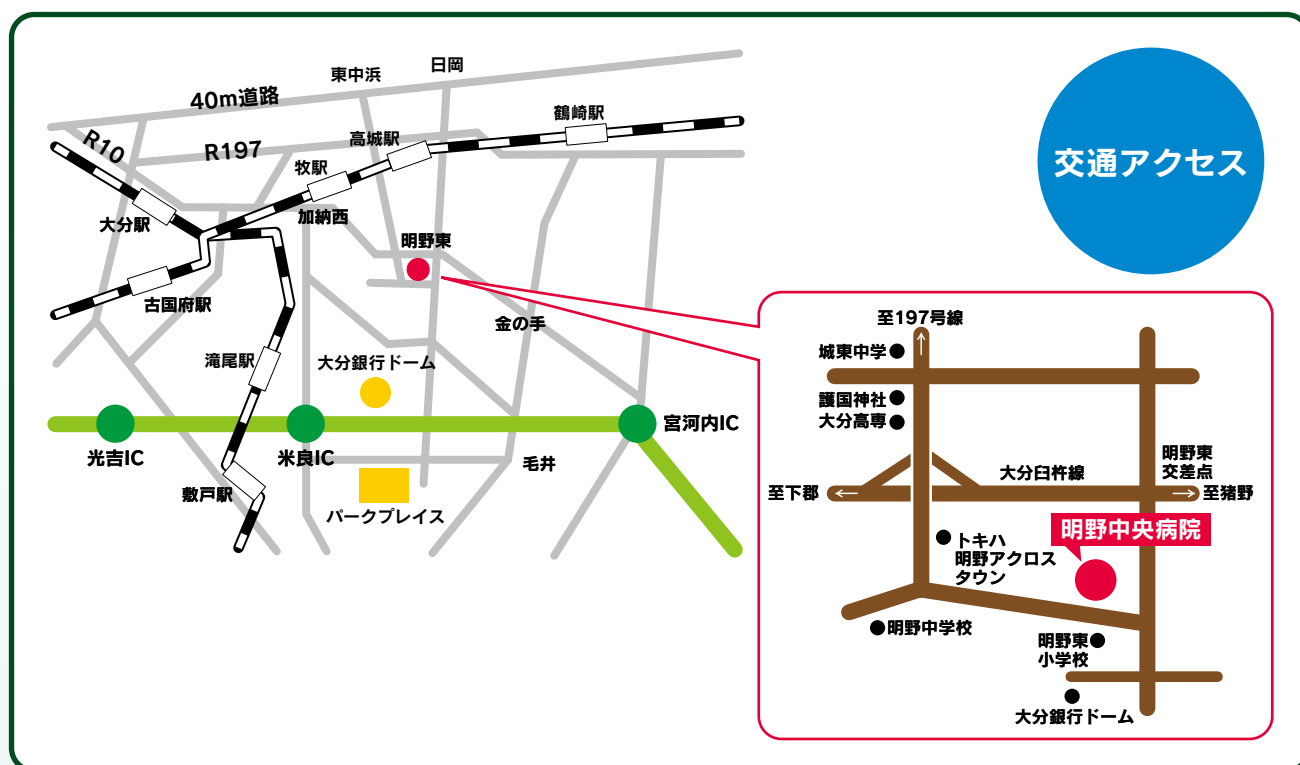
医療法人社団唱和会 明野中央病院

事業報告書（2015年度）

2016年7月1日発行

発行／医療法人社団唱和会 明野中央病院

編集／医療法人社団唱和会 明野中央病院 事務部総務課



医療法人社団唱和会 **明野中央病院**

〒870-0161 大分県大分市明野東2丁目7番33号

TEL (097)558-3211 FAX (097)558-3709

E-mail: akenohp@fat.coara.or.jp

<http://www.akenohp.jp/>